

全てみ佛の浄土

柏崎市 花栄寺 九里悠禅

今年の冬 波状攻撃 長くつらい日々でした

春の訪れ 仏の世界 浜辺にピクニックに行きました

冬の厳しさも仏の世界であることを忘れまい

「我がしどあんのん此土安穩」の言葉をかみしめたい

生きることもみ仏の顕れ

死ぬることもみ仏の顕れ

私達は悲しみの底にある時も、苦しさに身悶える時も、絶望の淵に突き落とされたときも、

どんなときであっても、全てみ仏の命を生きていると心定め、泰然として我が為すべきを為す。

そんな心を養うことができれば、素晴らしいと思う

震災から十一年、曹洞宗宗務庁が作成したDVDを拝見

高校生が震災の「語り部」活動をしていた

当時幼かった人たちが、震災を伝える最年少の世代と自覚

父母の悲しみ、苦しみ、猛烈な努力を知っている

「震災があったから出会えた出会いもある」との言葉

【漢訳書き下し文】

「阿僧祇劫に於て

常に靈鷲山及び余の諸の住処に在り。

衆生が劫尽きて大火に焼かると見る時も

我が此の土は安穩にして天人が常に充滿せり。

園林、諸の堂閣は、種種の宝をもつて莊嚴され

宝樹には華果多くして衆生の遊樂する所なり。

諸天は天鼓を撃つて常に諸の妓樂を作し

曼陀羅華を雨らして仏及び大衆に散ず。

我が浄土は毀れざるに而も衆は、「この浄土が」焼け尽きて

憂怖〔や〕諸の苦惱が是の如く悉く充滿せりと見る。

是の諸の罪の衆生は悪業の因縁を以て

阿僧祇劫を過ぐれども三宝の名を聞かず。

『法華経』中村元著 2003年

東京書籍

(現代語訳 大乘仏典 2)